

努力の結晶・果物

江東区立川南小学校 五年 長谷 美月

おいしくて、栄養満点で、色々なアレンジも楽しめる、皆が大好きな食べ物は何だろうか？正解は、果物だ。甘味・酸味・苦味など様々な味わいがあり、生でも、ジュースやジャム、お菓子などに加工しても、豊富なバリエーションを毎日あきずに食べられる。しかし、ふだん私達が当たり前のように口にしてしている果物は、生産する方々の努力と苦勞の結晶だという事を皆さんに知ってほしい。

昨年茨城の親せきを訪れた時、果物や野菜を栽培中のビニールハウスが台風によって破壊された光景にショックを受けた。一つ一つの実に心をこめてわが子のように育てた梨やメロンが、つぶれて出荷できなくなるだけでも悲しいのに、農園再建のための多額の出費に直面し、果物農家をやめようか悩む人達に出会った。また、やっと熟したみかんなどをハクビシンや里に下りて来た熊などの動物が食べあらししてしまう事も多いと教わった。

それでも農家の方々は、おいしい果物を心待ちにする私達のために、農園を整え直したり、ネットを張って動物を防いだりといった工夫をしている。お話を直接聞いて、いつも当然のように果物を食べられる生活の尊さに、深い感謝の気持ちで芽生えた。

帰り際、少し傷が付いたり形やサイズが不ぞろいの梨や柿を、「捨てられる物だから」と言ってくたくさん持たせてもらった。確かに、スーパーにならぶ果物は大体つるつるで同じ大きさだ。しかし、私達人間も形やサイズがちがうように、自然のもので育った果実の全てが同じでなくてもよい。いただいた傷付き果物も、とてもおいしかった。だから、規格外の果物も中身で勝負できるように、廃棄せずにどんどん売ってほしいと願う。

私の家では一年中果物を食べない日はない。おかげさまで皆笑顔で健康だ。これからもビタミンパワーをチャージし続け、コロナに負けない心と体を作っていこう。